

2024年4月吉日

会 員 各 位

一般社団法人日本翻訳連盟
代表理事 会長
安達 久博

一般社団法人日本翻訳連盟

2024年度定時社員総会開催のご通知【ご出欠・委任の確認】

拝啓 春暖の候、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。皆様には平素より当連盟へ格別のご配慮を賜り厚く御礼申し上げます。さて、標記の件につきまして、2024年度定時社員総会、懇親会を下記のとおり開催いたします。つきましては、総会のご出欠および議決権行使について2024年5月10日（金）までにお知らせくださいますようお願い申し上げます。

敬具

記

日 時 2024年6月5日（水）16:30～20:00
場 所 アルカディア市ヶ谷（私学会館）
東京都千代田区九段北4-2-25
電話 03-3261-9921（代表）

◎ 受 付 16:00～

◎ 総 会（4階 鳳凰の間）16:30～17:30（60分）会場開催のみ

1. 報告事項

2023年度事業報告

2. 決議事項

第1号議案 2023年度決算報告および監査報告

第2号議案 2024年度事業計画

第3号議案 2024年度収支予算

第4号議案 理事・監事の選出

3. その他

◎ 懇 親 会（5階 大雪の間）18:00～20:00（120分）会場開催のみ

懇親会会費 7,590円（6,900円+税）

（懇親会のお申込み方法、申込期限は下部をご確認ください）

■総会のご出欠および議決権行使について（回答期限：2024年5月10日（金）まで）

下記の既定のフォーム（外部サイト）にご出欠および議決権行使についてご入力くださいますようお願い申し上げます。ハガキの送付は行いません。ご回答期限を厳守くださいますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

法人会員（外部サイト） <https://ws.formzu.net/fgen/S46350015/>

個人会員（外部サイト） <https://ws.formzu.net/fgen/S322788229/>

■懇親会のお申込みについて（申込期限：2024年5月29日（水）まで）

下記のフォームよりお申込みをお願いいたします（会場開催のみ）。当日申込は受け付けません。

<https://www.jtf.jp/learn/seminar/148>

お手数をおかけいたしますが、何とぞよろしくお願い申し上げます。

2023 年度事業報告書
(2023年4月1日～2024年3月31日)

当事業年度における国内経済は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が季節性インフルエンザと同じ5類に移行したことに伴い、対面での企業活動が復活しつつある。一方、ロシアのウクライナ侵攻の長期化と新たにイスラエル、パレスチナ紛争などが企業活動や消費活動に大きな影響を及ぼし、国内景気は依然不透明な状況が続いている。翻訳・通訳業界においては、翻訳需要は堅調に推移する一方で、引き続き顧客からの品質・価格・納期への要求の高まり、業界内での競争激化、大規模言語モデル（LLM）に基づくChatGPTに代表される新しいイノベーションの利活用の進展など、翻訳・通訳業界を取り巻く環境は一段と大きく変化してきている。このような環境の中で、改めて、当連盟が翻訳・通訳業界の中核的役割を果たす組織であることを自覚し、関連諸団体との提携、協力関係を強化しながら、引き続き翻訳・通訳業界の認知度を高め、社会的な地位向上と持続可能な発展と健全化に努めた。また、会員のための業界団体として、JTF 公式 Web サイト、JTF ジャーナル Web 版を活用した情報発信など、より一層の会員サービスの向上を図るため、昨年度同様に以下の5項目を重点施策として推進した。

- (1) セミナー開催方法のオンライン化による会員サービスの拡充と入会促進
- (2) 委員会体制の強化と Web サイトのリニューアルによる事務局業務の効率化
- (3) ほんやく検定に関する組織強化と実施方法に関する検討
- (4) 機械翻訳・支援ツール等に関する調査・研究
- (5) 国内外関連団体との提携・協力関係の強化

以上の活動を通じて当連盟の各事業内容を拡充させ、一定の成果を挙げることができた。様々な場面における入会勧誘活動により会員数は前年比18件増と伸ばすことができた。事業活動収入については、4年ぶりの現地開催となった第32回JTF翻訳祭2023の参加人数が986名となり、その後の交流パーティーも好評であった。なお本イベントに先立ち、「翻訳の日」を記念した4団体トップによるパネル討論（日本翻訳者協会（JAT）、日本会議通訳者協会（JACI）、アジア太平洋機械翻訳協会（AAMT））を開催した。数年前に問題となった詐欺まがい翻訳学校と同様の事案があり、4団体の連携により「被害にあわないために」という内容で声明文を出すことができた。次年度の第33回JTF翻訳祭2024は元日に発生した令和6年能登半島地震の復興支援の一環として、金沢市文化ホールでリアル開催とし、これまでのオンラインの良さも取り入れ、リアルとオンラインを融合したハイブリッドな翻訳祭に決定し、実行委員会で企画が進行中である。翻訳セミナーについては全4回開催し、多くの会員、非会員の方々に参加していただいた。ほんやく検定については受験者総数が734名であり、前年度比でおよそ26.1%アップとなった。

■1. 翻訳事業に関する調査及び研究（定款第4条第1号関係）

①業界調査委員会

【実施実績】

2023年度翻訳通訳白書のマーケティングプランとして、以下のような販売・広報活動を実施した。

- (1) AmazonにてPOD（プリント・オン・デマンド）サービスによる販売
 - (2) JTF 会員・非会員・過去の購入者へメールリストによる告知活動
 - (3) JTF ホームページおよび JTF 公式 SNS(X（旧 Twitter）、Facebook、Instagram)を利用した広報活動
 - (4) 関連団体の協力による広報活動
- 結果、Amazonでの販売実績は5冊となった。

【評価】

例年の販売数が5～10冊であり、今年は少なめの実績となった。
また、「次回調査に向けて調査方法や調査項目など調査デザインの修正要否について協議」を計画していたが、実施できなかった。協力会社の選定し直しも含めた大きな変更を行うか、調査の継続性を重視した小幅変更に留めるかを議論するところからはじめていきたい。

【担当】

業界調査委員会

委員長：二宮俊一郎（JTF 理事）

委員：安達久博（JTF 会長）、小泉志保（JTF 理事）、中野真紀（JTF 理事）、原真理恵（JTF 理事）、筆谷信昭（日本映像翻訳アカデミー株式会社）、室田陽子（JTF 理事）

②翻訳品質委員会

【実施実績】

活動実績は特に残せなかった。

【評価】

2023年度の事業計画では以下のような活動を計画していた。

- A) 公開資料の維持管理および活用
- B) 公開資料の告知と広報
- C) ほんやく検定との連携

このうち A と B については、特に活動実績は残せていない。『JTF日本語標準スタイルガイド』については、参考資料として引用されるケースが着実に増えている。当委員会として活動は残せていないながら、JTFスタイルガイドの浸透は進んでいると考えられる。
C については、引き続き、委員長・高橋がほんやく検定委員会にも参加しており、そのなかでMT利用をどう扱うかという問題は継続的に真がされている。そこに加えて、昨年からは生成AIの問題も加わったため、当委員会としては、MTや生成AIの発展もふまえて翻訳品質を考えていく必要がある。

【担当】

翻訳品質委員会

委員長：高橋聡（JTF 副会長）

副委員長：東尚子（個人翻訳者）

委員：駒宮俊友（個人翻訳者）、田嶋奈々（株式会社翻訳センター）、舟津由美子（個人翻訳者）

③用語バンク委員会

【実施実績】

活動実績は特に残せなかった。

【評価】

コロナ禍も落ち着きをみせてきており、行動制限の緩和が期待できるため、昨年度は十分に活動できなかった用語バンクを実現するために、産学官の様々な立場の方々に構想の趣旨をご理解いただき、ご支援をいただく必要がある。Web で公開した資料を基に、業界関係者、関係機関への働きかけを促す活動を引き続き実施してゆく計画であったが、大規模言語モデル (LLM) に基づく生成 AI という新しいイノベーションの登場により、産官学の関係者の関心がそちらに向いており、訴求活動が難しかった。なお、委員会の主要メンバーは今年度で退任することとなり、本委員会も今期で終了することとした。

【担当】

用語バンク委員会

委員長：安達久博 (JTF 会長)

副委員長：森口功造 (JTF 専務理事)

委員：隅田英一郎 (JTF 理事)、高橋聡 (JTF 副会長)

■2. 翻訳事業に関する研修会及び講演会等の開催 (定款第 4 条第 2 号関係)

①セミナー委員会

【実施実績】

セミナーの開催

回数	日時	テーマ	JTF	翻訳学校	一般	学生	プレミア	合計
1	7月6日	新しい翻訳英文法：AI 翻訳時代を生き延びるために 水野 的 (MITIS (水野翻訳通訳研究所) 所長)	100	7	64	0	0	171
2	9月14日	翻訳校閲講座「日本語ライティングスキルを鍛えよう！」 久松 紀子 (翻訳校閲者・校閲者／英語教材執筆者・校閲者)	111	8	66	2	1	188
3	2月20日	トランスクリエーション：AI 時代の共感のデザイン 小塚 泰彦 (株式会社 morph transcreation 代表取締役社長)	31	0	20	0	3	54
4	3月14日	医療情報の読み解き方ー“ダイエット薬”の診療報道の背景を探るー 西村 多寿子 (株式会社ことのはラーニング代表取締役)	18	2	7	1	0	28
合計人数			260	17	157	3	4	441

【評価】

今期は7月以降、3月までの期間で全4回のセミナーを実施した。前半の2回は、7月「新しい翻訳英文法：AI 翻訳時代を生き延びるために」と題して水野的様に講演いただき、JTF 会員のみならず、一般参加者にも数多く集まっていた。9月には翻訳校閲講座「日本語ライティングスキルを鍛えよう！」と題して久松紀子様講演いただき、法人会員・個人会員のみならず、多くの一般参加者にも参加いただいた。

一方後半の2回は、専門特化した分野を中心に、2月には、「トランスクリエーション：AI 時代の共感のデザイン」と題して小塚康彦様に大変興味深い話をしていただいた。また3月には、「医療情報の読み解き方ー“ダイエット薬”の診療報道の背景を探る」と題して、西村多寿子様に最新の医療テーマを題材に、大変興味深いセミナーを実施いただいた。

各セミナーによっては、参加者数に大きくバラツキがあったものの、いずれのセミナーに

についても、JTF が扱うものとして、その内容に相応しい質の高いものとなった。

【担当】

JTF セミナー委員会

委員長：村下理事（JTF 理事）

副委員長：石岡映子（JTF 常務理事）

委員：安藤惣吉（JTF 常務理事）、木村仁美（アイ・ディー・エー株式会社）、小泉志保（JTF 理事）、富田剛介（株式会社コングレ・グローバルコミュニケーションズ）、中野真紀（JTF 理事）、由良恭平（アイ・ディー・エー株式会社）

②翻訳祭実行委員会

【実施実績】

新型コロナウイルス感染症の影響でこれまでオンライン開催を余儀なくされたが、4年ぶりのリアル開催が実現できた。またオンラインの良さも取り入れ、会場開催、オンライン開催、アーカイブ配信とこれまでにない充実した開催方法となった。テーマは「どうする!? 翻訳通訳業界」とし、グローバル化や MT（機械翻訳）の急速な進化、AI 時代の新しい波に対して、「翻訳者、通訳者、翻訳通訳会社、翻訳通訳に関わる企業」がともに議論していく場として、さまざまな講演やセミナーを行うことができた。

これもひとえに実行委員の方々のアイデアと情熱の賜物であり、この場を借りて感謝申し上げます。

【評価】

リアル配信の映像においては、音声の途切れなど不具合が多かった。次回はリアル配信でなく、録画で対応することも検討課題としたい。立地については、東京駅の目の前ということで、これ以上ない便利さはあったが、ホテルなどのホールと違ってきめ細かい対応を必ずしもしてくれるものではなかったため、説明不足等で追加の費用等が発生などした。しかし全体的には黒字で終えることができた。これも多くのスポンサー様のお陰であり、感謝申し上げます。

【担当】

大会組織委員会

大会組織委員長：森口功造（JTF 専務理事）、副委員長：村下義男（JTF 理事）、委員：石川弘美（JTF 理事）、二宮俊一郎（JTF 理事）、松元洋一（JTF 理事）

実行委員会

実行本部

実行委員長：松元洋一（JTF 理事）、実行副委員長：中野真紀（JTF 理事）、プログラム委員長：成田崇宏（株式会社ホンヤク社）、広報委員長：石川弘美（JTF 理事）、渉外：平野幸治（株式会社メディア総合研究所）、木村仁美（アイ・ディー・エー株式会社）、財務：敦巻千里（株式会社翻訳センター）

実行委員

広報委員：佐々木春香（株式会社アスカコーポレーション）、松本佳月（翻訳者）、マハウオンウィリヤ スタシニー（株式会社アミット）

プログラム委員：安藤惣吉（JTF 常務理事）、安間幸成（ヤマハ株式会社）、岩下雅寛（TOPPAN 株式会社）、小野愛美（株式会社ホンヤク社）、酒井秀介（翻訳者コミュニティ「カセツウ」）、塩崎理恵（株式会社アビリティ・インタービジネス・ソリューションズ）、高橋聡（JTF 副会長）、谷順一郎（株式会社オレンジ社）、西墻慎一（翻訳者）、舟津由美子（翻訳者）、古河師武（株式会社インターブックス）、松浦悦子（翻訳者）、宮本伸也（JTF 監事）、由良恭平（アイ・ディー・エー株式会社）、李東偉（JTF 理事）

■3. 翻訳事業に関する人材育成及び資格能力審査の実施（定款第4条第3号関係）

■2023年度事業報告

【実施実績】

①「JTFほんやく検定」の実施

第79回を2023年7月、第80回を2024年1月に以下の通り実施した。

- ・第79回：2023年7月22日（土）受験者394数名
- ・第80回：2024年1月27日（土）受験者340数名 合計734名（前年度582名）

受験方法：インターネット受験

科目：（基礎レベル）5級／4級（実用レベル）英日翻訳／日英翻訳

実用レベル選択分野：（1）政経・社会、（2）科学技術、（3）金融・証券、（4）医学・薬学、（5）情報処理

第32回JTF翻訳祭2023〔登壇日：2023年10月27日〕に会場登壇した。その後、会場で録画した動画をオンラインで視聴可能とした。これらを通してJTFほんやく検定の実施内容と特典、これまでのほんやく検定委員長の氏名と所属を紹介しながら、翻訳検定の歴史を簡単に紹介した。また、NIPTAとの特許分野の共同運営を順調に行うためにNIPTA試験員会に積極的に参加しNIPTAと検定運営についての意見交換の場を積極的に持った。さらに、JTFもNIPTA開催の知的財産翻訳検定を広報面で支援した。

【評価】

受験者総数は734名であり、前年度比でおよそ26.1%アップとなった。事業計画で予定していた1,000名に対しては26.6%ダウンとなった。第75回、第76回、第77回、第78回と受験者に上下の変動があるが、この変動の理由が機械翻訳の使用をほんやく検定試験で禁止したことによるかは不明である。JTF公式Webサイト「検定合格者リスト」（JTF会員専用）及びJTF機関誌(JTF Journal Web版)に第76回、第77回の1・2級合格者プロフィールを掲載し、JTF加盟翻訳会社と合格者の仕事マッチングに寄与した。

【担当】

ほんやく検定委員会

委員長：安藤惣吉（JTF 常務理事）

委員：高橋聡（JTF 副会長）、マイアットかおり（JTF 理事）

オブザーバー：室田陽子（JTF 理事）

②「JTFほんやく検定」問題・解説集の刊行

【刊行実績】

過去問題・解説集の刊行

「JTFほんやく検定」各回につき実用レベルの全分野・全科目と基礎レベルの問題・訳例・解説で構成される過去問題・解説集を以下の通り刊行した。販売部数は831部（前年度1,075部）となっている。

第78回：2024年7月刊行

【評価】

問題・解説集については、毎回受験者及び購入希望者からの問合せが数多く寄せられている。受験前の傾向と対策及び受験者の復習ツールとして、翻訳力向上のための有益な媒体となっている。

【担当】ほんやく検定委員会

委員長：安藤惣吉（JTF 常務理事）

委員：高橋聡（JTF 副会長）、マイアットかおり（JTF 理事）

オブザーバー：室田陽子（JTF 理事）

■4. 翻訳事業に関する情報の収集及び提供（定款第4条第4号関係）

①トラブル防止委員会

【実施実績】

数年前に発生した「詐欺まがいの翻訳学校」と内容が近似している「AIを使うと語学力不問でプロ翻訳者になれる」というような宣伝文句で学習者を集め、高額な授業料を取るというネット上の翻訳学校が昨年あたりから出現し、日本翻訳者協会（JAT）日本会議通訳者協会（JACI）、アジア太平洋機械翻訳協会（AAMT）との4団体の連携により「被害にあわないために」という内容で声明文を出すことができた。

【評価】

4団体の声明文は一定数の効果が出たようで、講座料の返還に成功したものなどや今後の予防的な措置ができた。

【担当】トラブル防止委員会

委員長：松元洋一（JTF 理事）

②組織強化委員会

○組織強化の推進

【実施実績】

昨年度に引き続き事務局員のリモートワークの継続とWebサイト、業務システムなどの利活用により事務局業務の効率化を図るとともに、会員向けのサービスを一層強化した。アジア太平洋機械翻訳協会（AAMT）等と連携し、翻訳精度が向上しつつあるニューラル機械翻訳等の調査、研究、利活用状況などの会員への情報提供を引き続き実施した

【評価】

法人会員、個人会員ともに関心の高い大規模言語モデルとそれに基づく生成AIという新しいイノベーションについてもAAMTからの情報を臨機応変に会員へ周知することができた。特に、翻訳祭でのAAMT理事の講演に参加者の関心が非常に高く、多くの方々の聴講が得られた。

【担当】

組織委員会

委員長：安達久博（JTF 会長）

委員：高橋聡（JTF 副会長）、森口功造（JTF 専務理事）、安藤惣吉（JTF 常務理事）、石岡映子（JTF 常務理事）

○翻訳・通訳事業のISO規格化に向けた取り組み

【実施実績】

翻訳部会では、ISO5060（翻訳品質評価）が発行された。また、ISO18587:2017は定期レビューにおいて見直しをすることが決定されたため、今後の検討部会に参加をする。昨年度は、4年ぶりに対面での国際会議が開催され、JTFとしては翻訳および通訳のそれぞれの部会から1名ずつ総会に参加した。

通訳部会では、現在5年見直しの時期となり、今年発行したのものではISO1765-1（通訳者のワーキング環境：固定式通訳ブース）やISO1765-2（通訳者のワーキング環境：移動式通訳ブース）、ISO18841（通訳サービス：一般的要求と推奨）、ISO2019（同時通訳：機器）が、それぞれ発行した。現在、同時通訳機器、機材に関するものや手話通訳者向けの環境を整備するものまで進行中である。

【評価】JTF内ISO検討委員会も11年目を迎え、報告と検討のプロセスは成熟している。生

成 AI の発展を受けて、業界に影響を与える国際標準規格の策定が開始された場合には、速やかに委員会内での検討ができる体制となっている。

【担当】

組織委員会部会 ISO 規格検討会

部長：森口功造（JTF 専務理事）

部会委員：田嶋奈々（株式会社翻訳センター）、村下義男（JTF 理事）、山田優（立教大学）

○通訳事業に関する講演会等の開催及び調査研究

【実施実績】

第 1 回の翻訳セミナーに水野翻訳通訳研究所の水野的先生をお招きし、「新しい翻訳英文法～AI 翻訳時代を生き延びるために～」と題して、講演していただいた。水野氏は 1988 年より放送通訳者、会議通訳者として長年活躍され、そのご経験を生かして、日本の翻訳や訳読の歴史の中で、「訳し上げ」に対抗する形でご自身が主張されてきた「順送りの訳」（前から訳していく手法）を実践し、各大学でも長年、後進の指導もされてきました。セミナーでは、多くの英文事例を取り上げ、具体的な「順送りの訳」を実践していただき、多くの受講生にご参加いただいた。

【評価】

過去、それぞれの分野で活躍されている現役の通訳者を中心に講演いただく形式であったが、今回は元放送、会議通訳者で、現在は翻訳について深く研究されている水野先生に講演いただき、通訳者ならではの経験に裏打ちされた興味深い内容となり、大変好評を博した。

【担当】

組織委員会部会 通訳部会

部長：村下義男（JTF 理事）

③広報委員会

【実施実績】

○JTF ウェブサイトの企画・運営

ウェブサイトは、連盟のショールーム的な位置づけとして、主に会員管理やセミナー申し込み機能などを中心に提供している。インボイス制度の導入に伴い、適格事業者番号を含んだ帳票の発行が可能になるように改修した。イベントなどの新しい情報は、主に SNS やジャーナルを通じて発信しており、Instagram のアカウントも新たに作成し、そこから情報を積極的に発信をおこなった。

また、保守会社の母体変更に伴い、保守内容の契約を見直し、新しい契約を締結した。

○JTF Web ジャーナルの編集発行

2022年4月から新体制をスタートさせ、毎週滞りなく更新を行った。特に業界ニュースでは、ウェブの特性を生かし、常に最新情報を公開した。また、リレー連載では、「私の一冊」という内容で、記事を書いた人が次の記事を書く人を紹介するというリレー形式で好評連載中である。

特集では、翻訳業界の重鎮に登場してもらい、翻訳者になるまでのいきさつの連載や、JTF 翻訳祭で好評だったセッションの紹介を行った。また、翻訳通訳に関する他団体との連携強化の一環として、JAT、JACI、AAMT と共同で行ったパネルディスカッションの紹介や、これら他団体の活動の紹介も行った。

○その他広報活動

「翻訳の日」を記念して、JAT、JACI、AAMT と共同でパネルディスカッションを主催した。これにより、業界全体の連携が強化された。翻訳祭の広報も実施し、SNS を活用したキャン

ペーンを展開した。

【評価】

セミナーの動画販売についてはあまり進めることができなかつたため、引き続き検討したい。また、業界団体の連携についても今後も進めていく。

【担当】

委員長：石川弘美（JTF 理事）

委員：松元洋一（JTF 理事、JTF ジャーナル web 版編集長）、高須千代（編集）、手島千左子（ライター）

アドバイザー：松本佳月（翻訳者）

■5. 翻訳事業に関する内外関連機関との連絡及び協調（定款第4条第5号関係）

【実施実績】

「翻訳の日」を記念した4団体トップによるパネル討論（日本翻訳者協会（JAT）、日本会議通訳者協会（JACI）、アジア太平洋機械翻訳協会（AAMT））を開催した。

【評価】

数年前に問題となった詐欺まがい翻訳学校と同様の事案があり、4団体の連携により「被害にあわないために」という内容で声明文を出すことができた。今後も4団体の連携を推し進めて行く。

【担当】

組織委員会

委員長：安達久博（JTF 会長）

委員：高橋聡（JTF 副会長）、森口功造（JTF 専務理事）、安藤惣吉（JTF 常務理事）、石岡映子（JTF 常務理事）

■6. 情報セキュリティに関する取組（定款第4条第9号関係）

【実施実績】

昨年同様に、引き続き事務局員のテレワークを実施し、セキュアな環境での事務局業務ならびに委員会活動、イベント運営等の円滑化に努めた。

【評価】

コロナ禍が季節性インフルエンザと同じ5類へ移行し、落ち着きつつあることを考慮し、対面での活動も増えることが予想されたが、事務局員の安全確保と負荷の軽減の観点から、リモートワークの継続と対面活動とのバランスについて取り組んだ。

【担当】

組織委員会

委員長：安達久博（JTF 会長）

委員：各委員会委員長、JTF 事務局

会員数（2024年3月31日現在）

	期首	期末
正会員 法人会員	201	184
正会員 個人会員	599	625
賛助会員	5	6
合計	805	815

2023年度決算報告(案)

収支計算書

2023年4月1日から2024年3月31日まで

(単位:円)

科目	予算額	決算額	差異	備考
I 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
① 入会金収入	(1,400,000)	(519,992)	(880,008)	
法人会員入会金収入	400,000	50,000	350,000	
個人会員入会金収入	1,000,000	469,992	530,008	
② 年会費収入	(19,600,000)	(16,787,793)	(2,812,207)	
法人会員年会費収入	12,660,000	10,983,000	1,677,000	
個人会員年会費収入	6,740,000	5,646,461	1,093,539	
賛助会員年会費収入	200,000	158,332	41,668	
③ 調査及び研究事業費収入	(242,000)	(121,000)	(121,000)	
購読料収入	242,000	121,000	121,000	
④ 研修会講演会事業収入	(18,903,850)	(18,469,100)	(434,750)	
入場料収入	12,279,100	11,470,350	808,750	
スポンサー料収入	6,624,750	6,998,750	△ 374,000	
⑤ 資格能力審査事業収入	(10,500,000)	(7,987,811)	(2,512,189)	
受験料収入	8,000,000	6,340,770	1,659,230	
購読料収入	2,500,000	1,647,041	852,959	
⑥ 情報提供事業収入	(6,086,688)	(4,677,548)	(1,409,140)	
広告料収入	6,086,688	4,677,548	1,409,140	
⑦ 雑収入	(1,051,000)	(453,618)	(597,382)	
受取利息収入	1,000	418	582	
雑収入	1,050,000	453,200	596,800	
事業活動収入	57,783,538	49,016,862	8,766,676	
2. 事業活動支出				
① 事業費支出				
調査及び研究事業費支出	(1,535,515)	(556,930)	(978,585)	
一給料手当支出	500,000	500,000	0	
一諸謝金支出	40,000	0	40,000	
一会場費支出	150,000	0	150,000	
一印刷製本費支出	20,000	6,561	13,439	
一旅費交通費支出	70,000	0	70,000	
一会議費支出	110,000	0	110,000	
一通信運搬費支出	70,000	50,369	19,631	
一業務委託費支出	275,515	0	275,515	
一広告費支出	300,000	0	300,000	
研修会講演会事業費支出	(17,137,400)	(18,061,520)	(△924,120)	
一給料手当支出	3,330,000	3,330,000	0	
一諸謝金支出	1,640,000	1,611,500	28,500	
一会場費支出	8,960,520	10,487,076	△ 1,526,556	
一印刷製本費支出	311,880	311,252	628	
一旅費交通費支出	230,000	152,646	77,354	
一会議費支出	270,000	29,390	240,610	
一通信運搬費支出	640,000	1,015,645	△ 375,645	
一広告費支出	490,000	187,911	302,089	
一業務委託費支出	1,265,000	936,100	328,900	
資格能力審査事業費支出	(10,492,000)	(9,344,048)	(1,147,952)	
一給料手当支出	3,400,000	3,400,000	0	
一諸謝金支出	3,100,000	2,888,810	211,190	
一印刷製本費支出	850,000	1,038,917	△ 188,917	
一旅費交通費支出	15,000	0	15,000	
一会議費支出	55,000	7,900	47,100	
一通信運搬費支出	1,200,000	690,379	509,621	
一広告費支出	800,000	280,500	519,500	
一業務委託費支出	1,072,000	1,037,542	34,458	

科目	予算額	決算額	差異	備考
情報提供事業費支出	(8,992,000)	(9,274,170)	(△282,170)	
－給料手当支出	2,600,000	2,600,000	0	
－諸謝金支出	1,964,000	2,064,000	△ 100,000	
－会場費支出	0	128,304	△ 128,304	
－印刷製本費支出	500,000	400,520	99,480	
－原稿料支出	66,000	77,000	△ 11,000	
－旅費交通費支出	930,000	901,337	28,663	
－会議費支出	100,000	87,400	12,600	
－通信運搬費支出	800,000	1,025,388	△ 225,388	
－広告費支出	10,000	0	10,000	
－リーフレット製作費支出	10,000	0	10,000	
－業務委託費支出	2,012,000	1,990,221	21,779	
関連機関協力事業費支出	(500,000)	(402,806)	(97,194)	
－負担金支出	500,000	402,806	97,194	
事業費支出計	38,656,915	37,639,474	1,017,441	
② 管理費支出				
人件費支出	(7,750,000)	(9,015,215)	(△ 1,265,215)	
－給料手当支出	5,000,000	6,217,926	△ 1,217,926	
－法定福利費支出	2,300,000	2,351,214	△ 51,214	
－福利厚生費支出	300,000	297,600	2,400	
－通勤費支出	150,000	148,475	1,525	
会議費支出	(330,000)	(576,020)	(△246,020)	
－理事会費支出	150,000	482,416	△ 332,416	
－旅費交通費支出	180,000	93,604	86,396	
事務所費支出	(4,310,000)	(4,341,554)	(△ 31,554)	
－賃借料支出	4,100,000	4,138,750	△ 38,750	
－光熱水道費支出	210,000	202,804	7,196	
会場費支出	(1,900,000)	(1,266,568)	(633,432)	
需用費支出	(1,520,000)	(1,369,397)	(150,603)	
－印刷製本費支出	10,000	0	10,000	
－通信運搬費支出	300,000	429,689	△ 129,689	
－旅費交通費支出	10,000	0	10,000	
－リース料支出	1,000,000	907,692	92,308	
－消耗品費支出	200,000	32,016	167,984	
業務委託費支出	(950,000)	(935,000)	(15,000)	
租税公課支出	(1,100,000)	(619,100)	(480,900)	
法人税等支出	(70,000)	(70,000)	(0)	
雑支出	(200,000)	(0)	(200,000)	
管理費支出計	18,130,000	18,192,854	△ 62,854	
事業活動支出	56,786,915	55,832,328	954,587	
事業活動収支差額	996,623	△ 6,815,466	7,812,089	
II 投資活動収支の部				
1. 投資活動収入				
投資活動収入計	0	0	0	
2. 投資活動支出				
投資活動支出計	0	0	0	
投資活動収支差額	0	0	0	
III 財務活動収支の部				
1. 財務活動収入				
財務活動収入計	0	0	0	
2. 財務活動支出				
財務活動支出計	0	0	0	
財務活動収支差額	0	0	0	
IV 予備費支出	0	0	0	
当期収支差額	996,623	△ 6,815,466	7,812,089	
前期繰越収支差額	41,009,123	41,009,123	0	
次期繰越収支差額	42,005,746	34,193,657	7,812,089	

収支計算書に対する注記

1. 資金の範囲

資金の範囲には、現金預金、未収金、前払金、未払金、前受金、預り金、未払法人税等及び未払消費税等を含めている。

なお、前期末及び当期末残高は、下記2に記載のとおりである。

2. 次期繰越収支差額に含まれる資産及び負債の内訳

(単位:円)

科目	前期末残高	当期末残高
現金預金	53,321,365	45,930,017
未収金	0	204,968
前払金	1,903,933	894,819
合計	55,225,298	47,029,804
未払金	2,516,553	1,346,074
前受金	10,908,000	11,160,000
預り金	288,822	244,973
未払法人税等	70,000	70,000
未払消費税等	432,800	15,100
合計	14,216,175	12,836,147
次期繰越収支差額	41,009,123	34,193,657

正味財産増減計算書
2023年4月1日から2024年3月31日まで

(単位:円)

科目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 受取入会金	(519,992)	(808,330)	(△ 288,338)
法人会員受取入会金	50,000	70,000	△ 20,000
個人会員受取入会金	469,992	738,330	△ 268,338
② 受取年会費	(16,787,793)	(17,640,097)	(△ 852,304)
法人会員受取年会費	10,983,000	12,068,107	△ 1,085,107
個人会員受取年会費	5,646,461	5,421,990	224,471
賛助会員	158,332	150,000	8,332
③ 調査及び研究事業収益	(121,000)	(145,200)	(△ 24,200)
受取購読料	121,000	145,200	△ 24,200
④ 研修会講演会事業収益	(18,469,100)	(14,481,177)	(3,987,923)
受取入場料	11,470,350	8,816,177	2,654,173
スポンサー料	6,998,750	5,665,000	1,333,750
⑤ 資格能力審査事業収益	(7,987,811)	(8,795,448)	(△ 807,637)
受取受験料	6,340,770	6,564,774	△ 224,004
受取購読料	1,647,041	2,230,674	△ 583,633
⑥ 情報提供事業収益	(4,677,548)	(5,603,025)	(△ 925,477)
受取広告料	4,677,548	5,603,025	△ 925,477
⑦ 雑収益	(453,618)	(1,050,295)	(△ 596,677)
受取利息	418	295	123
雑収益	453,200	1,050,000	△ 596,800
経常収益計	49,016,862	48,523,572	493,290
(2) 経常費用			
① 事業費			
調査及び研究事業費	(556,930)	(2,494,444)	(△ 1,937,514)
- 給料手当	500,000	500,000	0
- 印刷製本費	6,561	24,579	△ 18,018
- 通信運搬費	50,369	258,925	△ 208,556
- 業務委託費	0	1,710,940	△ 1,710,940
研修会講演会事業費	(18,061,520)	(8,368,987)	(9,692,533)
- 給料手当	3,330,000	3,530,000	△ 200,000
- 諸謝金	1,611,500	1,265,000	346,500
- 会場費	10,487,076	2,559,647	7,927,429
- 印刷製本費	311,252	14,327	296,925
- 通信運搬費	1,015,645	583,774	431,871
- 広告費	187,911	176,989	10,922
- 会議費	29,390	0	29,390
- 旅費交通費	152,646	0	152,646
- 業務委託費	936,100	239,250	696,850
資格能力審査事業費	(9,344,048)	(10,089,078)	(△ 745,030)
- 給料手当	3,400,000	3,400,000	0
- 諸謝金	2,888,810	2,691,590	197,220
- 印刷製本費	1,038,917	1,018,060	20,857
- 通信運搬費	690,379	1,122,980	△ 432,601
- 会議費	7,900	0	7,900
- 広告費	280,500	935,000	△ 654,500
- 業務委託費	1,037,542	921,448	116,094
情報提供事業費	(10,521,614)	(9,021,929)	(1,499,685)
- 給料手当	2,600,000	2,400,000	200,000
- 諸謝金	2,064,000	1,914,000	150,000
- 印刷製本費	400,520	405,780	△ 5,260
- 原稿料	77,000	0	77,000

科目	当年度	前年度	増減
－旅費交通費	901,337	0	901,337
－会議費	87,400	56,000	31,400
－通信運搬費	1,025,388	830,214	195,174
－会場費	128,304	0	128,304
－広告費	0	4,000	△ 4,000
－リーフレット制作費	0	7,910	△ 7,910
－ソフトウェア減価償却費	1,247,444	1,247,444	0
－業務委託費	1,990,221	2,156,581	△ 166,360
関連機関協力事業費	(402,806)	(566,584)	(△163,778)
－負担金	402,806	566,584	△ 163,778
事業費計	38,886,918	30,541,022	8,345,896
② 管理費			
人件費	(9,015,215)	(8,865,772)	(149,443)
－給料手当	6,217,926	5,916,469	301,457
－法定福利費	2,351,214	2,376,696	△ 25,482
－福利厚生費	297,600	423,645	△ 126,045
－通勤費	148,475	148,962	△ 487
事務所費	(4,341,554)	(4,343,812)	(△ 2,258)
－賃借料	4,138,750	4,138,750	0
－光熱水道費	202,804	205,062	△ 2,258
会場費	(1,266,568)	(257,602)	(1,008,966)
需用費	(1,369,397)	(1,205,122)	(164,275)
－印刷製本費	0	5,410	△ 5,410
－通信運搬費	429,689	386,881	42,808
－リース料	907,692	785,004	122,688
－消耗品費	32,016	27,827	4,189
業務委託費	(935,000)	(968,000)	(△33,000)
会議費	(576,020)	(0)	(576,020)
－旅費交通費	93,604	0	93,604
－理事会費	482,416	0	482,416
租税公課	(619,100)	(1,210,700)	(△ 591,600)
法人税等	(70,000)	(70,000)	(0)
管理費計	18,192,854	16,921,008	1,271,846
経常費用計	57,079,772	47,462,030	9,617,742
当期経常増減額	△ 8,062,910	1,061,542	△ 9,124,452
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 8,062,910	1,061,542	△ 9,124,452
一般正味財産期首残高	45,958,027	44,896,485	1,061,542
一般正味財産期末残高	37,895,117	45,958,027	△ 8,062,910
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	37,895,117	45,958,027	△ 8,062,910

貸借対照表

2024年3月31日現在

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	45,930,017	53,321,365	△ 7,391,348
未収金	204,968	0	204,968
前払金	894,819	1,903,933	△ 1,009,114
流動資産合計	47,029,804	55,225,298	△ 8,195,494
2. 固定資産			
その他固定資産			
ソフトウェア	1,143,492	2,390,936	△ 1,247,444
電話加入権	149,968	149,968	0
保証金	2,408,000	2,408,000	0
その他固定資産合計	3,701,460	4,948,904	△ 1,247,444
固定資産合計	3,701,460	4,948,904	△ 1,247,444
資産合計	50,731,264	60,174,202	△ 9,442,938
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	1,346,074	2,516,553	△ 1,170,479
前受金	11,160,000	10,908,000	252,000
預り金	244,973	288,822	△ 43,849
未払法人税等	70,000	70,000	0
未払消費税等	15,100	432,800	△ 417,700
流動負債合計	12,836,147	14,216,175	△ 1,380,028
2. 固定負債			
固定負債合計	0	0	0
負債合計	12,836,147	14,216,175	△ 1,380,028
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
2. 一般正味財産	37,895,117	45,958,027	△ 8,062,910
正味財産合計	37,895,117	45,958,027	△ 8,062,910
負債及び正味財産合計	50,731,264	60,174,202	△ 9,442,938

財産目録
2024年3月31日現在

(単位:円)

科 目	金 額		
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金			
現金手許有高	53,264		
普通預金 三菱UFJ銀行八重洲通支店	17,641,102		
普通預金 りそな銀行東京中央支店	14,544,104		
普通預金 みずほ銀行京橋支店	10,000,387		
郵便振替	3,086,181		
ペイパル	604,979		
未収金 広告料他	204,968		
前払金 事務所費賃借料(4月分)他	894,819		
流動資産合計		47,029,804	
2. 固定資産			
(1) その他固定資産			
ソフトウェア	1,143,492		
電話加入権 事務局電話回線4回線	149,968		
保証金 事務局保証金	2,408,000		
その他固定資産合計	3,701,460		
固定資産合計		3,701,460	
資産合計			50,731,264
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金 業務委託費等	974,607		
未払金 通信運搬費	113,067		
未払金 諸謝金	159,500		
未払金 会場費	37,350		
未払金 印刷製本費	61,550		
前受金 会費等	11,160,000		
預り金 源泉所得税等	244,973		
未払法人税等	70,000		
未払消費税等	15,100		
流動負債合計		12,836,147	
負債合計			12,836,147
正味財産			37,895,117

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

公益法人会計基準(公益法人等の指導監督等に関する関係省庁連絡会議申合せ平成16年10月4日)を採用している。

(1) 固定資産の減価償却方法

ソフトウェア : 定額法

(2) リース取引の処理方法

リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっている。

(3) 消費税の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

2. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高



固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

科目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
ソフトウェア	6,237,220	5,093,728	1,143,492

監 査 報 告 書

私共は、一般社団法人日本翻訳連盟の2024年3月31日現在の預金現金の残高内訳明細及び2023年事業年度（自2023年4月1日、至2024年3月31日）の決算報告書について監査を行いました結果、作成されました一般社団法人日本翻訳連盟2023年事業年度の決算諸表が、本連盟の資産状況を公正に示しているものと認めます。

2024年4月22日

会計監査	一般社団法人日本翻訳連盟	監事	中岩 浩巳	
同上	同上	同上	宮本 伸也	

2024 年度事業計画書 (2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日)

■2024 年度事業計画

本事業年度における世界経済、国内経済は依然として先行きに不透明感はあるものの、国内では新型コロナウイルス感染症が落ち着きをみせ、季節性インフルエンザと同じ「5 類」へ移行した。一方、ロシアのウクライナへの侵攻により世界経済の不透明感は脅威となりつつある。さらには、パレスチナ、イスラエル紛争の激化、円安ドル高に推移した為替相場が進展したことによるインフレ懸念が現実となり、輸出入のアンバランスが国内経済に及ぼす影響も益々心配される。また、エネルギーの安定供給に向け、原子力発電所の稼働再開に向けた動きも各地で起きている。しかしながら、元旦に能登半島で大規模な地震が発生し大きな被害が出た、日本各地でも地震が頻発しており、台湾でも大規模な地震が発生し、ビルの倒壊など大きな被害が出た。このため、自然災害への対策も当連盟ならびに翻訳・通訳業界の持続可能な発展と健全化を進める上で B C P（事業継続計画）の策定と運用が重要となってきた。さらに、翻訳・通訳業界もリモートワークによる働き方改革が推進されてきたが、新型コロナウイルスの 5 類への移行に伴い、対面活動の復活と組織運営の観点などから事業所への出社などの回帰が見られる。一方、顧客からの継続した品質・スピード・コストに対する要求基準の高まり、さらには翻訳精度の向上がみられる機械翻訳（AI 翻訳）の利活用の進展等により、引き続き翻訳・通訳業界を取り巻く環境は市場・作業環境面で一段と大きく変化しつつある。また、昨年 10 月から施行されたインボイス制度への会員の対応とその影響についての業界調査。このような環境の中で、日本翻訳連盟は翻訳・通訳業界の中核的役割を果たす組織であることを自覚し、大きく変化しつつある市場・作業環境の中で持続可能な発展と健全化を推し進めていくために、これまでの伝統を継承しつつも新しいものを取り入れてゆく「不易流行」の考え方を基本に、関連諸団体との提携・協力関係を一段と深めながら以下の 5 項目を引き続き 2024 度の重点施策とする。

- (1) JTF 翻訳祭を関東・関西圏以外での初の地方開催を金沢市で実施する。オンデマンドでは、会場開催セミナーの録画に加え、別途オンライン録画セミナーも配信する。翻訳・通訳の需要拡大とあわせ、「ことばを伝える」をテーマとし、翻訳業界関係者だけでなく、翻訳・通訳がかかわるあらゆる業界・場面を想定したさまざまな講演を予定。令和 6 年能登半島地震の復興も兼ね、関係者一同が一丸となって JTF 翻訳祭を盛り上げて行きたい。
また、年間 4、5 回程度セミナーを開催するなど、会員サービスの拡充と入会促進
- (2) 委員会体制の強化とリモートワークの推進、Web サイトの利活用による事務局業務の効率化
- (3) ほんやく検定試験に関する組織強化と実施・運用方法に関する検討
- (4) 機械翻訳、翻訳・通訳支援ツールと新たに大規模言語モデル（LLM）に基づく生成 AI 等に関する調査・研究の推進
- (5) 国内外の関連団体との更なる提携・協力関係の一層の強化

■1. 翻訳事業に関する調査及び研究（定款第4条第1号関係）

①業界調査委員会

【内容】

第8回業界調査計画を策定し、業界調査を実施する。
調査実施にあたって、以下の点について委員会にて協議する。

- ① 売上増減情報等、継続調査項目の精査
- ② 業界へのインパクトの大きいと思われる情勢変化(トピック)の洗い出し。
- ③ 機械翻訳利用状況、コロナ禍影響、インボイス制度など過去に追加したトピック項目の継続調査要否の検討

【担当】

業界調査委員会

委員長：二宮俊一郎（JTF 理事）

委員：朱宮令奈（個人翻訳者）、中野真紀（JTF 理事）、原真理恵（JTF 理事）、筆谷信昭（日本映像翻訳アカデミー株式会社）、室田陽子（JTF 理事）、渡辺顕（株式会社サン・フレア）

②翻訳品質委員会

【内容】

A) 公開資料の維持管理および活用

- ・ 「JTF 翻訳品質評価ガイドライン」（以下「JTF ガイドライン」）を維持管理し、必要に応じて改訂する。また、「JTF ガイドライン」の試用と評価を翻訳会社などに要請する。
- ・ 「JTF 日本語標準スタイルガイド」（以下「JTF スタイルガイド」）、「JTF Style Guide for Translators Working into Japanese」（以下「JTF 英語版スタイルガイド」）および関連ツールを維持管理し、必要に応じて改訂する。特に、業界におけるスタイル指定の傾向に即す必要があるため、次項を検討する。
- ・ 最近の各社スタイルガイドを入手し、最近の傾向（の変化）を把握する。
- ・ 海外のクライアントや翻訳会社のスタイルガイド研究。海外企業は、日本語に特有のスタイルガイド指定を把握していないからか、日本語への翻訳に必要な項目を網羅していないことが多いように思う。そうした状況を把握して、海外企業向けに「JTF スタイルガイド」の普及を図りたい。

B) 公開資料の告知と広報

- ・ オンラインセミナーの形で、スタイルガイドおよびガイドラインの告知と浸透を図る。

C) ほんやく検定との連携

- ・ ほんやく検定におけるガイドラインおよびスタイルガイドの活用について、ほんやく検定委員会と協議する。

【担当】

翻訳品質委員会

委員長：高橋聡（JTF 副会長）

■2. 翻訳事業に関する研修会及び講演会等の開催（定款第4条第2号関係）

①JTF セミナー委員会

【内容】

前年度、東京、関西のセミナー委員会を統合化し初めてのセミナー委員会となり、開催は4回実施した。今年度も企画内容、開催方法（オンラインを中心にハイブリッド開催も含めて）を検討していく。開催は年間4回ないし5回程度を、翻訳祭を挟んで開催する予定である。

【担当】

JTF セミナー委員会

委員長：村下義男（JTF 理事）

委員：安藤惣吉（JTF 常務理事）、木村仁美（アイ・ディー・エー株式会社）、富田剛介（株式会社
コングレ・グローバルコミュニケーションズ）、中野真紀（JTF 理事）、由良恭平（アイ・ディー・
エー株式会社）

②翻訳祭実行委員会

【内容】

- ・名称：第 33 回 JTF 翻訳祭 2024
- ・テーマ：「ことばを伝える — 情報、技術、文化、そして心を伝える」
- ・開催期間

[会場] 2024 年 10 月 24（木）・25 日（金）（金沢市文化ホール）

（24 日交流パーティー：金沢ニューグランドホテル）

[オンデマンド] 2024 年 11 月の 1 ヶ月間を予定

関東・関西圏以外での初の地方開催を行う。オンデマンドでは、会場開催セミナーの録画に加え、別途オンライン録画セミナーも配信する。翻訳・通訳の需要拡大とあわせ、生成 AI の台頭で、何をどう伝えるかがあらためて問われている今、「ことばを伝える」をテーマとし、翻訳業界関係者だけでなく、翻訳・通訳がかかわるあらゆる業界・場面を想定したさまざまな講演を予定している。令和 6 年能登半島地震の復興も兼ね、関係者一同が一丸となって翻訳祭を盛り上げたい。

【担当】

大会組織委員会

大会組織委員長 村下義男（JTF 理事）、大会組織副委員長 二宮俊一郎（JTF 理事）

委員 石川弘美（JTF 理事）、松元洋一（JTF 理事）、中野真紀（JTF 理事）

実行本部

実行委員長 中野真紀（JTF 理事）、実行副委員長 石川弘美（JTF 理事）、

広報委員長 前田耕二（株式会社川村インターナショナル）

プログラム委員長 高橋聡（JTF 副会長）、プログラム副委員長 塩崎理恵（株式会社アビリティ・
インタービジネス・ソリューションズ）

渉外 木村仁美（アイ・ディー・エー株式会社）、平野幸治（株式会社メディア総合研究所）

財務 敦巻千里（株式会社翻訳センター）

実行委員会

広報委員 佐々木春香（株式会社アスカコーポレーション）、松本佳月（個人翻訳者）、マハウオン
ウィリヤスタシニー（株式会社アミット）

広報サポート 石川弘美（JTF 理事）

プログラム委員 安間幸成（ヤマハ株式会社）、石井周太（株式会社ウィズウィグ）、酒井秀介（翻
訳者コミュニティ「カセツウ」）、西墻慎一（個人翻訳者）、舟津由美子（個人翻訳者）、前田耕二
（株式会社川村インターナショナル）、松浦悦子（個人翻訳者）、茂木澄花（個人翻訳者）、由良恭平
（アイ・ディー・エー株式会社）

■3. 翻訳事業に関する人材育成及び資格能力審査の実施（定款第 4 条第 3 号関係）

①「JTF ほんやく検定」の実施

【内容】

本年度もほんやく検定を 2 回実施する。今年度の受験者数の目標は、530 名（延べ人数）とする。
基礎レベル 4 級および 5 級の試験実施については、第 81 回以降は当面休止をすることとし、JTF ほ
んやく検定での基礎レベル試験（4 級および 5 級）の実施方法や目的などを十分検討することにする。

本年度も特許分野を NIPTA 様と共同運営し、JTF 会員は NIPTA 様のすべての試験を 20%引きで受
験できるサービスを継続する。

また、ほんやく検定の最適な PR 活動をさらに積極的に行う。SNS 媒体を活用した広報展開を行い、
新規受験者数の増加を図る。さらに、本年度も JTF 法人会員が運営する翻訳学校の現役受講生に対
する JTF 会員受験料適用を実施し、翻訳学習者もほんやく検定を受験しやすくし、受験数増加を図

る。

若手翻訳者や独立を目指している合格者の為に、翻訳会社との交流を深める機会を提供する。

【日程】

第 81 回：2024 年 7 月 27 日（土）、第 82 回：2025 年 1 月 25 日（土）

科目：（実用レベル）英日翻訳／日英翻訳

実用レベル分野：（1）政経・社会（2）科学技術（3）情報処理（4）医学・薬学（5）金融・証券
（6）特許（特許については NIPTA 様と共同運営を継続する）

受験方法：インターネット受験

②「JTF ほんやく検定」問題・解説集の刊行（基礎レベルに関して刊行しない）

【内容】

過去問題・解説集の刊行

DM、ホームページ、雑誌等による広報活動を積極的に行い、新規申込者数の増加を図る。本年度も従来どおり、各回の「問題・解説集」を編集・刊行する。

第 80 回：2024 年 6 月下旬刊行、第 81 回：2024 年 12 月下旬刊行

【担当】ほんやく検定委員会

委員長：安藤惣吉（JTF 常務理事）

委員：高橋聡（JTF 副会長）、マイアットかおり（JTF 理事）

オブザーバー：室田陽子（JTF 理事）

■4. 翻訳事業に関する情報の収集及び提供（定款第 4 条第 4 号関係）

①組織強化委員会

○組織強化の推進

【内容】

- ・引き続き事務局員のリモートワークの継続と Web サイト、業務システムなどの利活用により事務局業務の効率化、軽減化を図るとともに、会員向けのサービスを一層強化する。
- ・AAMT（アジア太平洋機械翻訳協会）等と連携し、機械翻訳（AI 翻訳）、生成 AI 等の調査、研究、利活用状況などの会員への速やかな情報提供を引き続き実施する。

【担当】

組織委員会

委員長：安達久博（JTF 会長）

委員：高橋聡（JTF 副会長）、森口功造（JTF 専務理事）、安藤惣吉（JTF 常務理事）、石岡映子（JTF 常務理事）

○翻訳・通訳事業の ISO 規格化に向けた取り組み

【内容】

翻訳部会では、あらたに改定対象となった ISO 18587（ポストエディット）の規格策定に関与する。本規格は、自己適合宣言を含めて国内での利用が普及し始めていることもあり、翻訳業界に与える影響は大きい。そのため、見直しには積極的に関与する必要がある。通訳部会では、大きな案件は昨年度までに完了したが、現在 5 年ごとの ISO の見直しの期限が順次きている。その中でも 5 年前に発行した同時通訳関連の機材、ブース等の規格見直しや新規の ISO を検討する動きも出ている。関連する ISO については、引き続きフォローしてゆく。翻訳・通訳ともに、昨年同様対面での国際総会が開催される見込みであるが、対象規格の影響度、およびロビー活動の重要性を考慮し、JTF として国際総会へ参加する。本事業年度も、TC37 SC5 の総会は、ベルギーのブリュッセルにある、European Parliament にて 6 月に実施予定である。

【担当】

組織委員会部会 ISO 規格検討会

部会長：村下義男（JTF 理事）

部会委員：田嶋奈々（株式会社翻訳センター）、森口功造（JTF 専務理事）、山田優（立教大学）

○通訳事業に関する講演会等の開催及び調査研究

【内容】

全体回数のうち、1回は通訳者によるセミナーを企画し、実施していく予定である。これまで同様、現役通訳者として活躍されている方々に登壇いただき、ユニークな経験や仕事での基本的な心構え等をセミナー参加者に伝えてもらえるよう、有益な企画を実施していく。

【担当】

組織委員会部会 通訳部会

部会長：村下義男（JTF 理事）

○業界向上に向けた取り組み

【内容】

理事会の承認を得て、今期よりトラブル防止委員会から、「業界向上部会」の名称に変更となった。業界向上部会は、業界の地位向上に寄与するため、健全な発展を目指す。そのために他の委員会と連携を図りながら、今期は業界における規定や行動規範などの構築と定着を進めていく。あわせて業界向上部会は従来通り、業界内でのトラブル予防のための情報発信と業界内の窓口として組織委員会（三役）とも連携しながら進めていく。

【担当】 組織委員会部会 業界向上部会

委員長：松元洋一（JTF 理事）

②広報委員会

【内容】

○JTF ウェブサイトの更新・運営

速やかな更新をおこなえるよう体制づくりを強化する。引き続きた、引き続き動画配信サービスの流れを構築し、セミナーやその他の動画販売についても検討する。

○JTF Web ジャーナルの編集発行

松元編集長を中心に、特集記事に関する会議を密に行い、今後も企画運営していく。さらに海外の理事を新たに委員に迎え、海外情報のイベントレポートや、海外の翻訳団体などと連携して海外の情報の発信を増やすための取り組みを行う。また、翻訳者に有益な情報の提供を提供することも目指す。

○JTF 翻訳祭での広報活動

遠隔地での開催となるため、参加者・スポンサーに有意義なイベントとなるよう、クライアントや、いままでとは異なる層に対しての発信を強化する。

○その他

翻訳の日のイベントや、関係団体と連携した取り組みを強化していく。

【担当】 広報委員会

委員長：石川弘美（JTF 理事）

委員：高須千代（編集）、手島千左子（ライター）、前田耕二（株式会社川村インターナショナル）、松元洋一（JTF 理事、JTF ジャーナル web 版編集長）

アドバイザー：松本佳月（翻訳者）

■5.翻訳事業に関する内外関連機関との連絡及び協調（定款第4条第5号関係）

【内容】

内外との経済活動の活性化が見込めるため、ISO 関連を含め、内外の関係機関との対面での連絡及び協調を積極的に進め行く。特に、JAT（翻訳者協会）、JACI（会議通訳者会議）、AAMT（アジア太平洋機械翻訳協会）の3団体様との連携強化を今後も推進して行く。

【担当】

組織委員会

委員長：安達久博（JTF 会長）

委員：高橋聡（JTF 副会長）、森口功造（JTF 専務理事）、安藤惣吉（JTF 常務理事）、石岡映子（JTF 常務理事）

■6.情報セキュリティに関する取組（定款第4条第9号関係）

【内容】

事務局員の安全確保と負荷の軽減の観点から、リモートワークの継続と対面活動とのバランスについて取り組む。

【担当】

組織委員会

委員長：安達久博（JTF 会長）

委員：各委員会委員長、JTF 事務局

収 支 予 算 書(案)
2024年4月1日から2025年3月31日まで

科目	予算額	前年度予算額	差異	前年度決算額	備考
I 事業活動収支の部					
1. 事業活動収入					
① 入会金収入	(1,400,000)	(1,400,000)	(0)	(519,992)	
法人会員入会金収入	400,000	400,000	0	50,000	
個人会員入会金収入	1,000,000	1,000,000	0	469,992	
② 年会費収入	(19,140,000)	(19,600,000)	(△ 460,000)	(16,787,793)	
法人会員年会費収入	11,640,000	12,660,000	△ 1,020,000	10,983,000	
個人会員年会費収入	7,250,000	6,740,000	510,000	5,646,461	
賛助会員年会費収入	250,000	200,000	50,000	158,332	
③ 調査及び研究事業費収入	(121,000)	(242,000)	(△ 121,000)	(121,000)	
購読料収入	121,000	242,000	△ 121,000	121,000	
④ 研修会講演会事業収入	(14,679,550)	(18,903,850)	(△ 4,224,300)	(18,469,100)	
入場料収入	9,990,800	12,279,100	△ 2,288,300	11,470,350	
スポンサー料収入	4,688,750	6,624,750	△ 1,936,000	6,998,750	
⑤ 資格能力審査事業収入	(9,200,000)	(10,500,000)	(△ 1,300,000)	(7,987,811)	
受験料収入	7,800,000	8,000,000	△ 200,000	6,340,770	
購読料収入	1,400,000	2,500,000	△ 1,100,000	1,647,041	
⑥ 情報提供事業収入	(6,416,688)	(6,086,688)	(330,000)	(4,677,548)	
広告料収入	6,416,688	6,086,688	330,000	4,677,548	
⑦ 雑収入	(1,051,000)	(1,051,000)	(0)	(453,618)	
受取利息収入	1,000	1,000	0	418	
雑収入	1,050,000	1,050,000	0	453,200	
事業活動収入	52,008,238	57,783,538	△ 5,775,300	49,016,862	
2. 事業活動支出					
① 事業費支出					
調査及び研究事業費支出	(2,485,940)	(1,535,515)	(950,425)	(556,930)	
- 給料手当支出	400,000	500,000	△ 100,000	500,000	
- 諸謝金支出	0	40,000	△ 40,000	0	
- 会場費支出	0	150,000	△ 150,000	0	
- 印刷製本費支出	35,000	20,000	15,000	6,561	
- 旅費交通費支出	20,000	70,000	△ 50,000	0	
- 会議費支出	60,000	110,000	△ 50,000	0	
- 通信運搬費支出	260,000	70,000	190,000	50,369	
- 広告費支出	0	300,000	△ 300,000	0	
- 業務委託費支出	1,710,940	275,515	1,435,425	0	
研修会講演会事業費支出	(13,618,815)	(17,137,400)	(△ 3,518,585)	(18,061,520)	
- 給料手当支出	3,330,000	3,330,000	0	3,330,000	
- 諸謝金支出	1,342,000	1,640,000	△ 298,000	1,611,500	
- 会場費支出	5,259,935	8,960,520	△ 3,700,585	10,487,076	
- 印刷製本費支出	311,880	311,880	0	311,252	
- 旅費交通費支出	1,420,000	230,000	1,190,000	152,646	
- 会議費支出	30,000	270,000	△ 240,000	29,390	
- 通信運搬費支出	540,000	640,000	△ 100,000	1,015,645	
- 広告費支出	230,000	490,000	△ 260,000	187,911	
- 業務委託費支出	1,155,000	1,265,000	△ 110,000	936,100	
資格能力審査事業費支出	(8,000,000)	(10,492,000)	(△ 2,492,000)	(9,344,048)	
- 給料手当支出	3,400,000	3,400,000	0	3,400,000	
- 諸謝金支出	2,100,000	3,100,000	△ 1,000,000	2,888,810	
- 印刷製本費支出	650,000	850,000	△ 200,000	1,038,917	
- 旅費交通費支出	10,000	15,000	△ 5,000	0	
- 会議費支出	10,000	55,000	△ 45,000	7,900	
- 通信運搬費支出	660,000	1,200,000	△ 540,000	690,379	
- 広告費支出	300,000	800,000	△ 500,000	280,500	
- 業務委託費支出	870,000	1,072,000	△ 202,000	1,037,542	

科目	予算額	前年度予算額	差異	前年度決算額	備考
情報提供事業費支出	(8,865,000)	(8,992,000)	(△127,000)	(9,274,170)	
－給料手当支出	2,600,000	2,600,000	0	2,600,000	
－諸謝金支出	1,934,000	1,964,000	△ 30,000	2,064,000	
－印刷製本費支出	100,000	500,000	△ 400,000	400,520	
－原稿料支出	77,000	66,000	11,000	77,000	
－旅費交通費支出	510,000	930,000	△ 420,000	901,337	
－会議費支出	60,000	100,000	△ 40,000	87,400	
－会場費支出	0	0	0	128,304	
－通信運搬費支出	950,000	800,000	150,000	1,025,388	
－広告費支出	10,000	10,000	0	0	
－リーフレット製作費支出	10,000	10,000	0	0	
－ウェブリニューアル支出	200,000	0	200,000	0	
－業務委託費支出	2,414,000	2,012,000	402,000	1,990,221	
関連機関協力事業費支出	(400,000)	(500,000)	(△100,000)	(402,806)	
－負担金支出	400,000	500,000	△ 100,000	402,806	
事業費支出計	33,369,755	38,656,915	△ 5,287,160	37,639,474	
② 管理費支出					
人件費支出	(8,350,000)	(7,750,000)	(600,000)	(9,015,215)	
－給料手当支出	5,600,000	5,000,000	600,000	6,217,926	
－法定福利費支出	2,300,000	2,300,000	0	2,351,214	
－福利厚生費支出	300,000	300,000	0	297,600	
－通勤費支出	150,000	150,000	0	148,475	
会議費支出	(330,000)	(330,000)	(0)	(576,020)	
－理事会費支出	150,000	150,000	0	482,416	
－旅費交通費支出	180,000	180,000	0	93,604	
事務所費支出	(4,310,000)	(4,310,000)	(0)	(4,341,554)	
－賃借料支出	4,100,000	4,100,000	0	4,138,750	
－光熱水道費支出	210,000	210,000	0	202,804	
会場費支出	(1,400,000)	(1,900,000)	(△500,000)	(1,266,568)	
需用費支出	(2,000,000)	(1,520,000)	(480,000)	(1,369,397)	
－印刷製本費支出	10,000	10,000	0	0	
－通信運搬費支出	300,000	300,000	0	429,689	
－旅費交通費支出	10,000	10,000	0	0	
－リース料支出	1,480,000	1,000,000	480,000	907,692	
－消耗品費支出	200,000	200,000	0	32,016	
業務委託費支出	(950,000)	(950,000)	(0)	(935,000)	
租税公課支出	(1,100,000)	(1,100,000)	(0)	(619,100)	
法人税等支出	(70,000)	(70,000)	(0)	(70,000)	
雑支出	(100,000)	(200,000)	(△100,000)	(0)	
管理費支出計	18,610,000	18,130,000	1,080,000	18,192,854	
事業活動支出	51,979,755	56,786,915	△ 4,807,160	55,832,328	
事業活動収支差額	28,483	996,623	△ 968,140	△ 6,815,466	
II 投資活動収支の部					
1. 投資活動収入					
投資活動収入計	0	0	0	0	
2. 投資活動支出					
投資活動支出計	0	0	0	0	
投資活動収支差額	0	0	0	0	
III 財務活動収支の部					
1. 財務活動収入					
財務活動収入計	0	0	0	0	
2. 財務活動支出					
財務活動支出計	0	0	0	0	
財務活動収支差額	0	0	0	0	
IV 予備費支出					
当期収支差額	28,483	996,623	△ 968,140	△ 6,815,466	
前期繰越収支差額	34,193,657	41,009,123	△ 6,815,466	41,009,123	
次期繰越収支差額	34,222,140	42,005,746	△ 7,783,606	34,193,657	

役員改選：理事・監事選出の件

理事会より推挙の役員候補者

【理事候補者】16名

(再任 9名)

安藤 惣吉氏 株式会社ウィズウィグ 代表取締役 (法人会員)
 石川 弘美氏 株式会社十印 執行役員 (法人会員)
 高橋 聡氏 翻訳者 (個人会員)
 中野 真紀氏 翻訳者 (個人会員)
 二宮 俊一郎氏 株式会社翻訳センター 代表取締役社長 (法人会員)
 原 真理恵氏 株式会社RWSグループ 代表取締役社長 (法人会員)
 松元 洋一氏 株式会社インターブックス 代表取締役 (法人会員)
 村下 義男氏 株式会社コングレ・グローバルコミュニケーションズ 代表取締役社長 (法人会員)
 室田 陽子氏 株式会社アメリア・ネットワーク 代表取締役 (法人会員)

(新任 7名)

鳥田 倫宏氏 技術翻訳株式会社 代表取締役 (法人会員)
 清野 安希子氏 株式会社知財コーポレーション 専務取締役 (法人会員)
 佐藤 直人氏 株式会社アスカコーポレーション 執行役員 (法人会員)
 成田 崇宏氏 株式会社ホンヤク社 取締役 (法人会員)
 舟津 由美子氏 翻訳者 (個人会員)
 前田 耕二氏 株式会社川村インターナショナル 取締役 (法人会員)
 渡辺 顕氏 株式会社サン・フレア 取締役 (法人会員)

【監事候補者】2名

(再任 1名)

宮本 伸也氏 日本ビジネス翻訳株式会社 コンサルタント (法人会員)

(新任 1名)

隅田 英一郎氏 国立研究開発法人 情報通信研究機構 フェロー (法人会員)

なお、以下8名の現任役員は任期満了に伴い、退任いたします。

【退任理事】7名

安達 久博氏 株式会社サン・フレア 代表執行役員 (法人会員)
 石岡 映子氏 株式会社アスカコーポレーション 代表取締役 (法人会員)
 小泉 志保氏 京都大学大学院 医学研究科 社会健康医学系専攻 薬剤疫学分野 特定助教 (個人会員)
 隅田 英一郎氏 国立研究開発法人 情報通信研究機構 フェロー (法人会員)
 マイアット かおり氏 Word Connection sarl Managing Director (法人会員)
 森口 功造氏 株式会社川村インターナショナル 代表取締役社長 (法人会員)
 李 東偉氏 株式会社知財コーポレーション 取締役 (法人会員)

【退任監事】1名

中岩 浩巳氏 一般社団法人アジア太平洋機械翻訳協会 顧問 (法人会員)